

# ヨーロッパ麻酔学会 SQUEEZE study 参加のご案内

会員の皆様

国際医療福祉大学 医学部 麻酔・集中治療医学講座の倉橋です。この度、ヨーロッパ麻酔学会（European Society of Anaesthesiology; ESA）の主管で行う前向き観察研究（SQUEEZE study）の日本コーディネーターを仰せつかったため皆様にご連絡させて頂いております。以前 LUNG-SAFE study や WEAN-SAFE study もご紹介しましたが、今回は手術に関連した研究内容になります。

## 1. 研究のデザイン

ヨーロッパ麻酔学会主管・国際的多施設共同・前向き介入のない研究（コホート研究）

## 2. 研究目的

術後に昇圧薬を持続注入される患者がどの程度いるか、そしてそれに関連する臓器障害の発生率や臨床的転帰を調べる。患者属性や術前状態、手術内容、および術中管理などの要素が術後の昇圧薬投与に関わるかどうかを確認する。

## 3. 評価の項目及び方法

本研究は2部に分かれていて、Cohort A では各施設が設定する任意の1週間の全手術患者が対象、その後続く Cohort B では術後に血管作動薬（昇圧薬）を投与された患者連続30人を対象とします。

### 1) 主要評価項目

Cohort A: 非心臓手術患者における術後昇圧薬投与の使用状況

Cohort B: 院内死亡率

## 4. 実際の作業

1) IRB の承認を得てください

2) 1)と並行して研究の HP

(<https://www.esahq.org/research/clinical-trial-network/planned-trials/squeeze/>)

から参加登録をしてください

3) 2020 年春に study が始まります。患者情報は匿名化した後に、電子的に入力して行きます。Cohort A では概ね一人の患者当たり 7~8 分ほどで入力完了します。Cohort B では術日を入れて最大 7 日間の観察が必要ですが、それらを全て合わせても一人の患者について 10 分程の作業内容です。

## 5. スタッディーの準備状況

National coordinator として私の施設でまず倫理申請をして承認を得ました（リンク参照）。各ご施設での倫理申請にご利用頂いて結構です。尚、侵襲のない観察研究のため、個

別の同意は不要、opt out で良いとの判断になっております。SQUEEZE study committee も、バイアスを排除するために極力同意書不用での IRB 承認を得ることを推奨しています。もちろんご施設各々の IRB の判断となりますから同意書必要となる場合もあるかと思いますが、その場合にも参加は頂けますのでご安心ください。

以上、簡単ではありますが研究参加のご案内です。ご質問、ご意見がございましたら倉橋まで遠慮なくお寄せ下さい。

国際医療福祉大学 医学部 麻酔・集中治療医学講座  
国際医療福祉大学 三田病院 集中治療部

倉橋 清泰

tel: 03-3451-8121

Fax: 03-3454-0067

Email: kiyok@iuhw.ac.jp